

○住まいのミュージアムの基本理念

**1) 「住まい」をテーマとした日本初の専門博物館**

「住まい」を中心に「暮らし」から「まちづくり」までをテーマとして扱う歴史系の専門ミュージアムである。歴史・民俗・考古・美術が満遍なく展示されている総合博物館ではなく、住まいというテーマをもった日本初の専門博物館である。

**2) 高度な学術性をふまえ、市民の目線に立って歴史を読み解く**

歴史の復元には、学問的な裏付けをもった監修が必要である。住まいのミュージアムの展示は、学芸員が細部にわたる復元の考証にあたり、各分野の専門家の監修を受けたものである。さらに、専門家の満足にとどまるだけでなく、市民の目線に立って歴史を読み解き、その知的好奇心にこたえるように、展示の手法や装置に工夫を凝らしている。

**3) 見せる展示を超えた、体感する展示**

「近世大坂」の展示では、復元した町家の生活道具や調度類はすべて実物資料を用い、また一日の変化や季節感を演出することによって、展示ケースのガラス越しに見せる従来の展示にはない臨場感を出している。さらに上方古典芸能の公演やボランティア活動によって、江戸時代の町の賑わいを再現し、「体感する展示の実現」をめざしている。

**4) 「住まいと暮らし」の情報交流拠点として集客型ミュージアムをめざす**

集客都市をめざす大阪市の中で、他の博物館施設と連携した活動をおこない、「住まいと暮らし」をテーマにした専門ミュージアムとしてその一翼を担う。また大阪から全国に情報を発信することで「住まいと暮らし」の全国的な情報交流拠点をめざしている。